

クラウドは企業を変革させるか

SCSK 株式会社
CSK カンパニー クラウド事業本部
基盤統括部 第1 開発課
課長 瀧澤与一

1. 企業におけるクラウドの捉え方

2009 年頃から本格的に使われ始めた、「クラウド」という単語は、既にバズワードではなくなってしまったといえます。新進の企業にとっては、新しいサービスを始めるための初期投資という障壁をなくし、時代のニーズにあったサービスをいち早く実現しています。また、そのサービスが不要になった際には、撤退も容易です。エンタープライズ企業においては、従来の IT 部門主導ではなく、顧客の矢面に立つ、事業部門主導でクラウドが活用されており、IT 部門が統制環境を整備する猶予がなくなっているのが現状といえます。

クラウドは、これまでのIT の考え方を一新させています。従来、システム開発は時間のかかるものでした。経営が意思決定してから、システムが運用段階に至るまでは、相応の期間が必要でした。しかし、クラウドを活用する企業でのシステム構築では、短期間で原型を作ってみて、その効果を体感することが可能であり、経営が期待する効果を短期間で掌握できるのです。クラウドでは、テクノロジー面のメリットについて着目されがちですが、本質的にはビジネス面のメリットが大きいといえます。利用したいタイミングでIT 投資し、その効果を短期間で享受できる「利用型」へのモデル変革である事が非常に重要と言えます。このことは、従来の IT に関する考え方を変えています。すなわち、どのようなシステムを作るのかといった、「要求定義」がとても重要になっているということです。この「利用型」の進展に伴い、企業の IT 部門も変革を迫られています。今まではシステムの開発や保守・運用と言ったものが主体でしたが、今後はシステムの企画及びマネジメントといった仕事を中心になっていくものと推測されます。経営の意思に従い、その戦術を忠実に実行するIT が、容易に実現できる時代になったといえます。

私たちのお客様においても、あるサービスを実現するサーバ約70台規模のシステムをたったの2ヶ月間で、開発し運用段階まで持つていくこともありました。経営は、即座に IT 投資の効果をはかり、サービスの拡充、設備の増強を指示することができました。クラウドは、企業における変革のための道具であると言えます。

2. クラウドを活用して成功している手法

クラウドを活用して成功している企業・組織には、その規模とは関係なく、2つの共通点があります。ひとつは、ビジネススピードを大事にしていること。もうひとつは、コスト対効果の意識が高く、多少の労力はいとわない点です。この2点が、クラウドで企業を変革できるかのキーになっていると思います。

ビジネススピードを高める行為は、少しリスクを伴います。自動車で、アクセルを踏む感覚と同じです。自分の運転技術と、相応の性能を持った車がなければ、事故を起こしかねません。もちろん、交通ルールを守ることも重要です。IT 活用においても、全く同じで、変化に挑む経営指針と、クラウド活用、レギュレーション・法規制が、それにあたります。クラウドにおいては、ビジネススピードを高めるための、「高性能な車」にあたるものが手に入っただけなのです。

コスト対効果の観点は、すべての企業・組織が恩恵を受けたいと考えています。実際、クラウドは、コスト削減の手段としてみられていた時代もありました。クラウドが高いか安いかについてですが、我々の経験上、一概には安いと言えないと考えています。長期間使うことが決まっているシステムや、既存のシステムがある程度、既に機能している場合、法規制やレギュレーションの関係で、運用の標準化が困難で「人」に依存した運用体制を構築しなければならない場合などは、クラウドを使わないか、補助的に使うほうが、トータルコストとしては、安くなる傾向があります。これ以外の場合は、クラウドはコスト削減につながります。しかし、少し、労力が必要です。今までと違うルールであるクラウドを導入するには、企業・組織によっては、他の人を説得したり、社内の規程を変更したり、クラウドという技術を覚えたり、少し、労力が必要です。

クラウドで企業を変革できるかと言えば、「可能である」と言えます。これも、我々のお客様を通じての体感があります。しかし、急激な変革は、リスクを伴います。一方では従業員が、その急激な変化を抗い、効果がでない可能性があります。他方では、クラウドを用いた新たなサイロ、すなわち一度作ったら最後二度と壊せないような情報システムが出来上がることを懸念する声があるかもしれません。そこで、我々は、急激な変革を伴わずとも、安全にクラウドへの移行が可能な「ハイブリッドクラウド」を提唱しています。

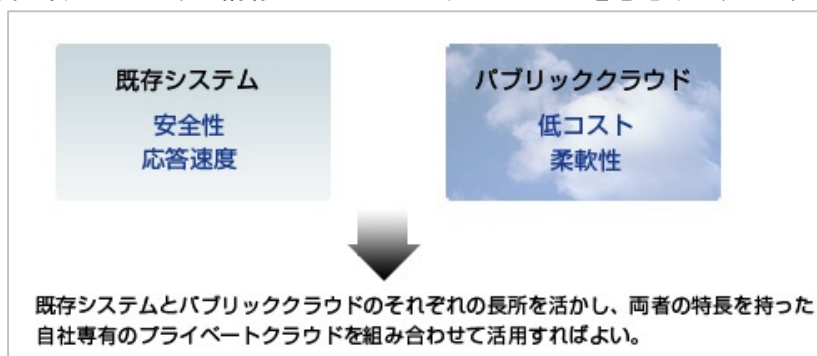


図1 ハイブリッドクラウドの基本的な考え方

3. 新しい「ハイブリッドクラウドの考え方」

ハイブリッドクラウドとは、「プライベートクラウドまたは既存システムと、パブリッククラウドを融合したクラウド」と言えます。ちょうど、ガソリンと電気で動く、ハイブリッドカーと同じように考えることができます。従来慣れ親しんだシステムと最新の IT 技術の組み合わせです。クラウドの効果を得つつ、リスクを低減可能です。

そして、私たちは、私たちのお客様へのハイブリッドクラウドの導入を通じて、ハイブリッドクラウドを下記の3つの段階、考え方でとらえています。



図2 「3つのハイブリッドクラウド」

(1) インフラ・ハイブリッドクラウド

パブリッククラウドとプライベートクラウドで提供されるサーバやアプリケーションを利用し、システムを構築します。柔軟かつ低コストでサービスを立ち上げる際はパブリッククラウドを活用し、個人情報など外部にデータを預ける際に困難が伴うシステムは、プライベートクラウド上で構築することが可能です。

システムの要件に従い、クラウドを選択することが可能であり、企業に、迅速性と柔軟性を提供します。

(2) アプリケーション・ハイブリッドクラウド

プライベートクラウドで構築されたシステムや既存システムと、パブリッククラウド上のシステム間で、データやワークフローを連携し、データとデータをつなげることで、新たな価値を生み出す手法です。従来、データは、ある固有のアプリケーションのみで活用さ

れてきました。しかし、データとデータをつなげ、その相互関係性をはかることで、新しい価値を生み出すことが可能です。例えば、在庫管理のデータと、人事のデータと、販売管理のデータをつなげ、そのデータの相関関係を分析することで、どのような施策を推進すれば、より強い人材を育てつつ、実利に基づくかの答えを見つけることができるかもしれません。

データをつなげることで、新しい価値を見いだすことが可能になります。

(3) オペレーション・ハイブリッドクラウド

クラウド技術を活用していない、従来型の既存システムの運用は、多くは人に頼っています。障害の管理や、日次のバックアップ、また、度重なるシステムの変更は、人により運用されています。反面、クラウドは、多くが自動化されており、その自動化を実現するために、いろいろな仕様が、標準化が行われています。この自動化はクラウドに限らず既存システムへも適用可能であり、管理レベルをより高めることができます。人の運用とシステムによる自動化の融合が、オペレーション・ハイブリッドになります。人の細やかで繊細かつ柔軟な対応と、自動化によるスピード、正確性をあわせもつ運用を推進してこそ、真のハイブリッドクラウドの成果を生み出すことができます。

クラウドの特徴の一つに、オンデマンドかつセルフサービスというものがありますが、オペレーション・ハイブリッドを推進すると、オンデマンドかつフルサービスを実現することが可能になります。

この3つのハイブリッドクラウドを段階的に企業・組織に導入していくことで、導入企業・組織を真に変革させ、新しい時代を切り拓いていくことが可能になります。

4. ハイブリッドクラウドを実現するソリューション

どのようにして、ハイブリッドクラウドを実現していくかですが、各クラウドやIT環境を自在にコントロールできるソリューションが必要であると考えています。理想的には、経営側から見たときに、どのクラウドを活用しているかわからないほど隠蔽され、自在に制御可能な状態を実現することです。そのため、私たちは、前項に示したように、ハイブリッドクラウドを3つに分解して考えています。

SCSKは、2005年より、プライベートクラウドであるUSIZEを提供してまいりました。また、SCSK独自のクラウド制御ソフトウェアであるPrimeCloud Controllerは、パブリッククラウドとプライベートクラウドをあたかも、同じクラウドであるかのように、自在に制御が可能です。そして、arvicioならびにデータ連携ソリューションは、異なるシステム間のデータをつなぎ、データの多面的な分析、

活用を行える環境を提供します。HMC は、どの環境でも、つぶさにシステムの状況、運用の状況がわかる、ポータルを備えています。

2011 年度、SCSK では、これらの技術、経験をふまえ、新しいソリューションとして「PrimeCloud Platform」を計画中です。「PrimeCloud Platform」は、従来の SI とは異なる、ハイブリッドクラウド時代に対応した、管理を中心においたモデルで、オンデマンド性の高いアプリケーションプラットフォームです。既存システムや、パブリッククラウドとのデータ連携、システム連携が容易で、必要なときに、必要なアプリケーションを従量課金で利用することが可能なプラットフォームです。これは、お客様のビジネス価値向上を支援する新しいプラットフォームです。私たちは、お客様に、クラウドを容易に活用いただくための、確固たる考え方と、実績に基づく堅実なソリューションのご提供を行っていきます。

5. IT の今後 ～クラウドを企業変革のために

クラウドは、企業を変革させる道具、すなわち、新しいビジネスモデルを創出させるための、手段であると言えます。そこには、パブリッククラウドを活用しなくてはならないとか、セキュリティが問題なのでプライベートクラウドでなくてはならない、といったような、技術的な議論は、クラウドを使わないための議論でしかありません。企業を変革させるかどうか、変革させたいかどうか、クラウドを活用する選択肢であると考えます。

昨今、経営をとりまく環境は大きく変わり、これまで強者だった企業は弱者に変わる可能性もあり、また、その逆も然りです。経済情勢、自然災害など、世の中が大きく変化しているこの時代に、変革を伴わない企業は、それとは気づかない速度で、緩やかに、縮退していく可能性もあります。

IT は、クラウドによって、大きく変革を促されています。クラウドは、技術革新によって生じた新しいビジネスモデルであり、これまでの既成概念・通説を覆していきます。私たちは、パブリッククラウドの活用、プライベートクラウドの構築、それらのハイブリッドなインテグレーション、全てにおいて、可能性を否定することなく、お客様に、真に活用いただけるソリューションを提示し続けていきたいと考えています。企業を変革に導く、秀逸なガイドでありたいと思います。私たちは、お客様にあくまでも満足いただけるサービスを提供し続けていき、企業を変革させ続けていきたいと考えています。